「オープン糸島in八重洲」を開催

市 長 短 信 H29年9月28日

1

首都圏への情報発信をブラッシュアップ

■首都圏情報発信イベント「オープン糸島 in 八重洲」

➤概要 : 関東圏で、シティプロモーションと移住推進に繋がるイベントを実施

【 日時 】平成29年10月29日 (日) (12時~17時)

【会場】ダイアゴナルラン東京 (東京都中央区八重洲)

【 内容 】会場を3つのテーマに分け、それぞれに糸島を疑似体験できるプログラムで、アトラクションを実施

【テーマ】①見る:景観写真などの観光情報、クラフト作品など、視覚的に

訴える情報提供

②聞く: 観光・食・移住などの個別相談や移住者のトークセッ

ションによる情報提供

③さわる:モノ作りワークショップ、ケータリングによる糸島食材

の試食など、体験を通した情報提供

▶ねらい: 従来の移住相談で説明してきた生活情報(税金、子育て環境など)に加え、豊かな自然環境での余暇のある暮らし『糸島生活』をPR。

シティプロモーションと移住推進を図り、観光・移住検討での来訪を誘導。

「糸島ファン」の裾野を広げる。

オープンキャンパス感覚で気軽に来れて糸島体験充実の一日 「オープン糸島in八重洲」 2017年10月29日開催

【市長コメント】

- ・今まで、首都圏のシティプロモーションは、食品バイヤーを中心に認知を進めてきた。
- ・本市への関心が高まる中、自治体間競争で差別化を図るためには、従来の物産展中心のPRから、次のプロモーション 手段を確立する局面にあると考えている。
- ・また、定住促進に関しては、これまでにも首都圏向けの移住イベント等に参加してきたが、相談者数は他市町村に比べ かなり多く、移住先として注目度が上がってきていると感じている。
- ・それぞれの担当部署(ブランド推進と定住促進)が連携し、こうした魅力・強みを活用しあうことで、他の自治体が やっていない次のステップに向けて磨き上げを進めていきたい。

小中学校へのエアコン設置

2

教育環境の充実に向けて

■市内全ての小中学校に空調設備を整備(1校は現在工事中)

▶概要:市内22校の小中学校に、エアコンを整備

設置箇所:353の普通教室

※小学校:242教室、中学校:111教室

• 総事業費:約8億3800万円

※うち国庫補助:約1億8000万円

▶背景:気象の変化に伴う教育環境への影響

・温暖化による気温上昇

→1977年の最高気温:33.7℃

→2017年の最高気温:38.9℃

※前原観測地点では史上最高気温を記録

• PM2.5対策

→授業中、暑くても窓が開けられない日がある。



【市長コメント】

- ・次世代を担う子どもたちには、糸島の地で健やかに育ち、将来は郷土糸島への誇りを胸に活躍してもらいたい。そのために、教育環境を充実させることは、大変重要。
- ・子どもたちの健全な育成のため、計画的な教育関連施設整備や、効果的なカリキュラムの導入、地域に根ざした学校づ くりに力を入れていきたい。

「職員のブランド化」を目指して

3

「職員のブランド化」を目指して

■「日本一」となった市職員による研修の人気

▶昨年「地方創生☆政策アイデアコンテスト2016」で、「地方創生大臣賞」を受賞した岡主査に、研究機関からの取材や講師依頼などが多く寄せられている。

【主な取材・講師依頼など】

- ・帝国データバンク社内報(単独インタビュー)
- 九州大学ビジネススクールニュースレター
- ・内閣府主催リーサスフォーラム(ゲスト登壇)
- 福岡県調査統計課主催職員研修
- ▶今回、熊本県に招聘されて職員向け研修の講師を務める。
 - 日時: 平成29年10月16日
 - 場所:熊本県庁
 - ・内容: ①日本一となった地方創生コンテストの政策説明
 - ②リーサスを活用した政策立案の実践(ワークショップ)
 - 対象: 熊本県内の自治体職員90名(熊本県45市町村から2名、県職員)

■職場で生かすノウハウ

- ▶職場では、このノウハウを生かし、担当業務で市のブランディングを支えている
 - ・ 糸島版マーケティングモデル事業 (29年度は糸島産ふともずく)
 - ⇒博多女子高校、JF糸島、㈱アジアンマーケット、食品産業クラスター協議会などと連携し、商品開発や販路開拓を行う。
 - ・映画文化の進行(ショートショートフィルムフェスティバル、映画「糸」制作)
 - 東京での飲食店ネットワーク構築(東京☆糸島レストラン)

は会などと連

个博多女子高発行冊子 「商品開発STORY2017」

【市長コメント】

- ・市のブランド化を進めるにあたっては「職員のブランド化」が重要だと考えている。
- ・その点でも、日本一に輝いた職員の存在は、本市にとって誇るべき最高の資源。
- ・今後も、岡主査の知見やノウハウを周りの職員に広げながら、お互いに良い影響を与えつつ、切磋琢磨を重ねて「職員 のブランド化」を進めたい。